

あいあいあい

I eye 愛

2022年

6月号



遺伝子操作技術に「NO」の旗を掲げよう

理事長 高橋 千佳

あいコープは、より自然で安全な食べ物にこだわり、心身ともに健康な暮らしの提案をしています。そんな中、日々進歩し続ける遺伝子操作技術。遺伝子組み換え、そしてゲノム編集という2つの遺伝子操作は、私たちの食卓の安全を脅かすだけではありません。種の交雑による汚染が起こったなら在来種に影響を及ぼし、生態系が崩れてしまいます。私たちは、食の安全を守ることと自然環境の保全は不可分の関係であると確信しており、両方の視点から、遺伝子操作に反対の立場で運動を展開しています。

そもそもなぜこのような技術が進み、誰にメリットが生まれるのでしょうか。「種を制するものは世界を制する」。多国籍企業が食糧支配を目的に、特許という種の独占で莫大な利益を得ようとしています。着々と世界に遺伝子組み換え食品市場を広げようとする中で、NOと言えない日本がターゲットになっているのが現実です。

消費者には選ぶ権利があるはずなのに、疑問や不安の解消がされるどころか、表示の問題も浮上してき

ました。来年、表示ルールの変更により、多くの商品に「遺伝子組み換えでない」と表示ができなくなります。遺伝子組み換え原料100%のものも、生産者が遺伝子組み換え原料を混入させないよう努力したものの、同列に扱う悪法です。ゲノム編集された食品は届出のみで表示さえありません。実際にゲノム編集された太った鯛が回転寿司に回り、ふろさと納税返礼品としてゲノム編集フグが登録された事例もあります。もしかするとすでに、私たちは知らずに口に入っているかもしれません。

ゲノム編集を推進する側は、遺伝子組み換えとの違いについて「遺伝子を加えるわけではないから品種改良と同じ」と主張します。遺伝子組み換えが足し算で、ゲノム編集が引き算だから従来の品種改良と変わらないという見解は大きな間違いです。単なる引き算ではなく、遺伝子の一部を破壊するという行為でどんな変異を起こすかわかりません。あいコープは予防原則を働かせ、解らないものは「作らせない、流通させない、食べない」という陸と海のGMOフリーゾーン運動をこれからも展開していきます。

CONTENTS

- | | | | | | |
|-------------------|----|---------------------|------|-----------------------|----|
| ▶ゲノム編集トマトに反対する運動 | …2 | ▶今年も農産産地との交流が始まりました | …4-5 | ▶シャボン玉フォーラム in やまがた開催 | …7 |
| ▶組合員による産地応援活動 始動！ | …3 | ▶楽しくなるパッケージを探そう | …6 | ▶生産者にあいに行こう 番外編 | …8 |

食べたくない 食べさせたくない 植えさせたくない

ゲノム編集トマト いりません！



OK シードマーク

2021年に「血圧を下げるトマト」と流通し始めた「ゲノム編集トマト」。販売元の企業がネットで希望者に苗を無料配布するなどのPRのせいもあってか、遺伝子組み換え作物よりも消費者に受け入れられやすいとされています。でも本当に安全なのでしょうか？私たち自身はもちろん、私たちの次の代、その次の代の子どもたちに健康被害はないのでしょうか？自然環境に影響はないのでしょうか？

あいコープではゲノム編集食品を供給しないことはもちろん、反対運動にも参加しています。

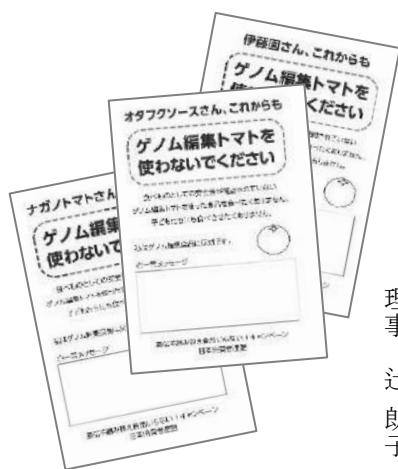


ゲノム編集トマト
「シシアンルージュ
ハイギャバ」
サナテックシード社 HP より

理事 後藤 咲子

ゲノム編集トマトを開発・販売しているサナテックシード社とパイオニアエコサイエンス社が社会福祉施設や学校にゲノム編集トマト苗を無償提供すると発表した事を受け、北海道を皮切りに全国で各自治体に受け取り拒否を求める要望書を提出する活動が広がっています。宮城県でも全35自治体に要望書を送付し、意向を問いました。返答のあった13自治体の中で、受け取らないと答えたのは8自治体で、受け取ると答えた所はありませんでした。

さりげなく浸透させようとする
企業の活動に待った！
無償提供 受け取りますか？



理事 辻 朗子

組合員に配布されたはがき
各々が切手を貼り、声を届けた



七郷・はさま(宮城)
八千代(茨城)、みちのく野菜(福島)
冷蔵19/38
トマト500g
500g 円(税込) 円
有機質肥料で土作りをした自産のトマトです。土耕栽培ならではの味わいをお楽しみください。

商品部農産チーム 千葉 ゆか

昨年9月に日本消費者連盟が始めた「はがきアクション」に、あいコープみやぎも賛同し、切手を貼れば出せるような宛名など必要事項を印刷したはがきを10月11日から全組合員に配布しました。投函すればトマト加工メーカーに「ゲノム編集トマトを使わないで欲しい」という消費者の声を直接届けることができます。日本消費者連盟が2月に再度トマト加工メーカーに質問状を送ったところ、回答が変化した会社が3社あったとのこと。「はがきが届いたから」と回答の変化の理由を挙げていたそうで、声をあげれば届くと実感できる結果となりました。

加工品に入ってしまったら
ますます見分けられない！
企業へのはがきアクション

後悔のない未来に向かって進むために、これからも諦めることなく一人一人のアクションをコツコツと積み重ねていきましょう。

ゲノム編集トマトの商業流通が始まりました。あいコープはゲノム編集食品に反対の意思を明確にし、取り扱う商品にゲノム編集作物ではないことを証明する「OKシードマーク」を付けるプロジェクト(OKシードプロジェクト)に賛同しました。現在、まんま通信掲載のトマト(※に、このマークを表示しています。

手順としては、まず生協から生産者へ質問(調査)書を送り、生産者がそれに回答します。生産者には苗の品種、商品名を証明してもらい、栽培履歴も添付してもらい、OKシードプロジェクトが定める『ゲノム編集作物でない』と証明する根拠を確認します。カタログにOKシードマークが表示されることで、組合員が安心して商品を選べるよう、産地と協力して取り組みを広げていきます。

「ゲノム編集作物ではない」ことを
ハッキリ表現
OKシードマークを表示



わたしも あいコープの農産現場で力になりたい! 組合員の援農活動 幕開け

この春、満を持して始まった「組合員による産地のお手伝い活動」。初回の募集でなんと25名(5月16日現在)の組合員が登録し、初めての作業が5月11日に行われました。参加した組合員さんの感想をお届けします。

◆国際情勢を考えていたら畑に◆

私は、あいコープの組合員になり20年になります。今まで産地交流会やその他の活動には、一度も参加した事はありませんでした。安全・安心なものをという思いで、商品利用のみの関わりでした。

近年の国際情勢により、輸入に頼っている日本では、生活にいろいろな影響が出ています。ですから、色々なものが国内で生産出来れば…。でも私には何も出来ないよな…。という思いが段々と強くなっていた頃でした。ちょうど3月に離職して、「さて次は何をしようかな?」と、一息ついた所に、あいコープの「農産産地のお手伝い求む!」のチラシが目に残りました。

◆自分のペースでやってみよう

役立てたら嬉しいという気持ち◆

「ああ、これだ!」と、早々に参加の申し込みをしていました。時間はたっぷりある。遠い所もあるけど毎日ではないし、都合の良い日で参加出来るという感じでプレッシャーもなさそう。いつも注文

して食べているものに自分が携われるのもいいなあ。農産地での作業は人手が要るよね、猫の手よりは役に立つのではないかな。という気持ちだけの参加でした。

◆カタログに載るかもワクワク

「あい」を作る大事な仕事◆

今回の作業はトウモロコシの定植でした。農作業は全く初めてでしたので、「これで大丈夫なのかなあ? 商品になるのに、農家さんの大切な苗を1本でも粗末に出来ない。」と不安でした。なので、「大きくくられ。おいしくくられ。」と、一苗一苗に一念しながら土をかけていきました。私の出来ることはこのくらいです。後は、収穫時期が来て、あいコープのカタログに掲載されて、「このお野菜はもしかしたら…」と、自賛しながら口にする時を心待ちにして、これからはお手伝い続けたいと思います。

この産地応援には、多くの人手が必要だと感じました。人の手は温かく、「あい」を作り、「あい」を運んでくれます。そう思いました。

産地応援参加 橋本 里枝



苗の植え方を教わる橋本さん



初心者の強い味方!
ベテランさんが揃ってます



組合員は専用ビブスを付け
サポートを受けながら活動

ええのう えんのう

ええのう えんのう 第15回目は、特別編。組合員の作業をサポートしてくれるえんのう倶楽部の想いを、高野恵美子さんに伺いました。

仙台えんのう倶楽部に参加して2年が経ちました。その間、色々な産地のお手伝いをさせていだいて、現場の大変さを痛感。日々コツコツとこなす作業もありますが、定植や草取りなど大勢で一気に済ませたほうが良い作業もたくさんあります。そんな時、いつも「ああ、もつと人手があればいいのに」と感じていました。

私は常々、組合員が農産産地に対して、手間のかかる有機や無農薬、手間のかかる安全安心な農産物を手ごろな価格で求めるのであれば、商品利用にとどまらずに農作業を自ら手伝うという活動が必要だと考えていました。ともに同じ地域で生きていく仲間として、組合員が農作業のお手伝いに行くことが当たり前になったらどんなに素敵な生協になるのだらうと。

今回、あいコープがその募集をしてくれて、多くの反応があり、興味ある組合員がたくさんいることが分かりました。もう、嬉しくて嬉しくて♪

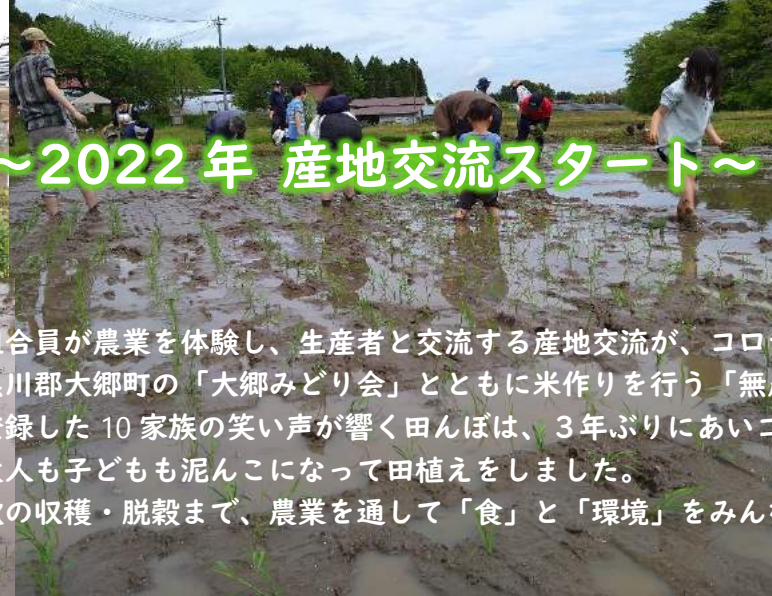
人がたくさん集まれば、広い圃場の草取りだってあっという間に終わっちゃいます! どんどんこの輪が広がりますように。

「私も産地の力になれるかな?」この活動に興味がある方はメールにて「組合員の産地援農について」とお書き添えの上
chiku@mamma.coop までお問い合わせください

組合員と生産者が守り続ける交流田～2022年 産地交流スタート～



5月14日 田植えを終えて



組合員が農業を体験し、生産者と交流する産地交流が、コロナ禍を乗り越え、始まりました。黒川郡大郷町の「大郷みどり会」とともに米作りを行う「無農薬交流田」。登録した10家族の笑声が響く田んぼは、3年ぶりにあいコープらしさを取り戻し、大人も子どもも泥んこになって田植えをしました。秋の収穫・脱穀まで、農業を通して「食」と「環境」をみんなで学びます。

「無農薬ってなんだろう」言葉じゃなく肌で感じる

自然豊かな大郷町の田園風景の中に、歴史を感じる「体験圃場」の看板と面積3アールの一枚の田んぼがあります。あいコープの生産者である「大郷みどり会」の協力の下、組合員が30年以上無農薬で米作りを体験してきた田んぼ。より自然で環境に負荷をかけない農業を目指すあいコープの想いが堆積しています。この産地交流は、【無農薬】を続ける苦労とその価値を、アタマだけでなく肌で感じ学ぶ取り組みです。

今年も春の参加者募集に、多くの組合員の応募がありました。厳正なる抽選の結果、10組の参加者が集い、自らの手で1本1本苗を植えました。これから秋まで、除草剤の代わりに手を動かして雑草を取り、病気にならないか見守りながら、生産者の仕事を（ほんの一部ですが）体験します。

自分の食べるものを自分で作るという夢への一歩

健康のためにより自然な食べ物を食べたいと昨年組合員になったばかりの鈴木さんは、無農薬栽培を体験できると知りワクワクして申し込んだそう。「今は仙台市の街中に住んでいますが、いつか自分で食べるものを自分で作れたら素敵だ



鈴木さん

なと思ってます」と語ってくれました。作業は想像以上に大変で「甘かった」と苦笑い。でも汗を拭く姿はとっても満足げでした。

カエルの声すら新鮮 田んぼはまるで別世界

中野さんご一家も仙台市から参加。ご夫婦と7歳・10歳の息子さんの4人で田植えを初体験。「虫や植物が好きな息子に、農作業の中で様々なことを五感で学ばせたいと思って参加しました」とお母さん。なるほど、息子さんとっても楽しそう。「泥の中、気持ちよかった?」と問うと、「うーん、気持ち悪かったけど気持ちよかった」と、初めての感覚を正直に教えてくれました(笑)。

長閑な田んぼのカエルの声、非日常で新鮮だったと嬉しそうの中野さん一家でした。



中野さんご一家

ご飯をもりもり食べる我が子のために

「私が子供の頃は学校で田んぼ体験したけど、今もあるんですかね?」とおっしゃるのは藤島さん。2歳・0歳のお子さんと参加。パパもサポートとして参加しました。前回落選してしまっただけに、当選の知らせを受け大喜びだったそう。ご飯が大好きでお米をいっぱい食べる息子さんに、安全な

お米を食べさせることはもちろん、それが作られる現場の様子を見て体験したいという気持ちで参加したそうです。

「生産者さんや理事さんの話を聞いて、無農薬ってすごいと思いました。農薬を使わないから土が綺麗だということも納得です。子どもに泥を安心して触らせられますよね。一度農薬を使えば簡単には元に戻せないでしょうから、長年無農薬で続けてきたことが有難いです」と、無農薬の価値をしっかりと感じておられたようでした。



藤島さん親子

大郷みどり会の皆さんが強い味方！

さて、そんな組合員さんを受け入れてくれる生産者さんはどう感じているのでしょうか。スタッフ参加して12年を数える大郷みどり会の松野さんは、教員免許を持つ異色の(?)ファーマー。「子どもたちには色々な失敗を経験してほしいです。最近は失敗させないように先回りする親御さんが増えましたね」と松野さん。農作業体験の中でも失敗を経験して、みんな成長するでしょう。

今回参加している若手の生産者は古関さんと今川さん。お二人とも、みどり会の米担当です。家庭菜園を楽しむ



松野さん
(大郷みどり会)

お母様に触発されて農大へ進んだという古関さんは、「大学では農家が収益を上げるための農法を学ぶことが中心だったため、有機や無農薬を実践する今の仕事はすごいし、興味を持ってくれる組合員さんがこんなにいるのが嬉しい」と言います。ご実家が農家で、今は修行の身という今川さんも「手植えなんて小学校以来。しかも交流田は無農薬で、ちゃんと収量上がるだろうかと心配してたら昨年は豊作でしたよね!今年も楽しみ」と目を輝かせました。



古関さん
(大郷みどり会)



今川さん
(大郷みどり会)

最後に、あいコープの様々な企画でもおなじみ、大郷みどり会の西塚忠樹さんからのメッセージです。

「キャンプでも川遊びでも、自然に触れる機会は色々あるのに、農業を選んで参加してくれる組合員さんがたくさんいるのが嬉しいです。農業って、生産者と消費者が触れ合うことが割と容易な業種だと思うんです。漁業を知りたくて漁船に乗るより、田んぼに来る方が簡単でしょ(笑)。収穫まで一緒に楽しみましょう!」



西塚さん
(大郷みどり会)

引き続き GM イネ実験栽培を監視します

3/26 大崎市川渡で東北大学が実験栽培しているGM（遺伝子組み換え）イネの公開説明会に、あいコープから4名がオンライン参加。実験する研究者側・反対する生協側という目で見てしまうと、ともすれば対立を招きそうなイメージですが、それぞれの立場だけでなく個人的な感覚も共有し交流を重ねることで、毎年新たな気づきと学びが生まれています。

今年はGMナタネ調査のことが話題に。東北大学の教授も石巻でのGMナタネ確認をご存じなく驚かれていたので調査のデータを共有しました。「加美町の農家の長男なので」と話す教授に親近感を覚え「では原発事故があったら大変ですよ」とさりげなく脱原発についても話せました。対話を続けながら、今後も環境に影響を及ぼさないよう要請し続けます。

理事 辻 朗子



遺伝子組み換えナタネ調査隊 今年も出動

GM（遺伝子組み換え）ナタネは、日本での栽培は認められていませんが、食用油の材料や家畜の飼料用に輸入されており、それが輸送途中にこぼれ自生していることがあります。それを見つけた行政や関係企業に結果を報告し、対策を求める活動をする「ナタネ調査隊」は全国に仲間がいて、あいコープみやぎは2007年から参加しています。4/13 仙台湾、4/20 石巻港での調査では、GMナタネは見つかりませんでしたが、その後石巻の幹線道路沿いで怪しい検体を発見。簡易検査の結果「バスター」という除草剤をかけても枯れない「バスター耐性ナタネ」であることが確認されました。これらを放置すれば増殖し、遺伝子組み換えでない作物と交雑する恐れが。汚染を防ぐため、地道な調査を毎年続けています。

理事 辻 朗子



道路脇で発見された
遺伝子組み換えナタネ



ナタネ調査マップ
場所が確認できます



パッケージには オモシロ情報がいっぱい

毎週の配送で届く様々な商品。よく見ると、美味しい食べ方や興味深い情報が書いてあり、思わず「へえー」と言ってしまうことも。捨てる前に手に取って裏返して、あなたも探してみませんか？
意外な発見があったら是非、あいあい編集部に情報を送ってください(^ ^) /



山形県産「花わさび」

どうやって食べるのが美味しいのかな？とパッケージ裏を見ると

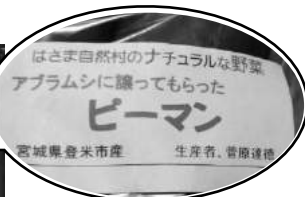
「花わさびのふすべしようにゆ漬け」の作り方が！
えっ！お湯をかける!?砂糖をかける!?でもこの通りやったら美味しくできた…。
(組合員Tさん・Gさん・Sさん他)



初めての「おかひじき」調理に自信がない…
そんなときもパッケージを見れば自信を持って食卓へ！

ふむふむ、産地ではからし醤油が定番とな。サラダやナムルにも使えるとな！！
いろいろ使える「おかひじき」なのですね。
(組合員Sさん)

生産者の
想いこめた
カードも



アブラムシに譲ってもらった
ビーマンって！深い！！

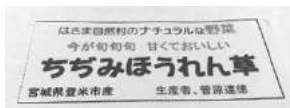
生産者の菅原達徳さん(はさま自然村)に聞きました

これはアブラムシ対策に苦戦しながらの収穫で、朦朧とした中書いた記憶がありますね(笑)

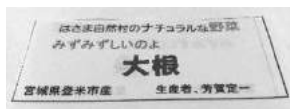
カードのコメントは、そのシーズンの状況を少しでも伝えたくてチョット遊びながら書いています。このカードは唯一、組合員さんへずーっと送ることのできる、生産者からの手紙です。離れていても、買って食べてくれる方になんか伝えたくて、楽しさを伝えたくて、仲良くなりました。遊びどころで書いています。プラスのこともマイナスのことも書きます。「トマトが小粒ですいません」と書いたこともあります。少し費用かけてカラーにしているのも、組合員さんに少しでも楽しんでほしいからです。



これからも楽しんでください



ちぢみほうれん草は
「今が旬旬旬」
とにかく旬を伝えたい



「みずみずしいのよ」大根
生産者の芳賀さんは
素敵なおジサマです！

※毎月このページに掲載の「ええのう えんのう」は、3ページに掲載しています

組織概要

(2022年4月分)

【組合員数】	15,089名
【供給高】	242,543千円
【一人実利用高】	5,615円/週
【出資金】	1,291,265千円

▼5月以降の組合員活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について決定した▼第34回通常総代会の進行プログラムと役割分担について協議した▼ジョイケアの決算及び予算報告を承認した▼2022年Wa!わあ祭り実行委員会開催日程を確認した▼2022年度の組合員活動役割分担を承認した▼「選挙に行こう」チラシの配布について承認した▼機関紙あいあい企画にNPO法人とうほく食育実践協会への協力要請をすることについて承認した。

2022年5月6日
(金)

理事会議事録抄

ちょっと
ひとこと

④ いつも好んで買っている焼きのりの入荷した時の写真に「こういうふうに通るんだ！」と驚き。うちではぎずのりがメインだけど、本当においしいと思います。(あいあいあい5月号アンケートへの回答より)

始めよう！緩けよう！ 石けん生活

5月14日
せつけん運動ネットワーク主催
シャボン玉フォーラム参加報告

シャボン玉フォーラム in やまがた オンライン開催 「最上川と。ともに未来へ」に参加

今年のシャボン玉フォーラムは3年ぶりの開催。初めに、今年の受け入れ団体「生活クラブやまがた生活協同組合」からの活動発表です。このフォーラムに向けて『子供達にきれいな環境をのこし未来につなぐ』をテーマに、石けん利用者を一人でも多く増やそうという取り組みを行ってきました。プラスチック問題、合成洗剤や香害問題、石けんの3チームそれぞれが多様な企画を行い、石けん未利用の組合員さんとの交流を積極的に行うことで着実に石けんを利用する組合員を増やすことができたそうです。固形石けんモニターや食器洗いの出張講座など、あいコープの委員会でも真似をしたくなる企画が沢山あり、とても勉強になりました。

シャボン玉フォーラムは「せつけん運動ネットワーク」の加盟団体が毎年持ち回りで受け入れ団体となります。来年はあいコープの番！開催に向けて、組合員さんとともに石けん運動を広めて行こうと思います。

石けん環境委員会

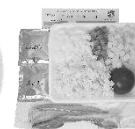
理事 佐藤 あきな

その後「母なる川、最上川とともに未来へつなぐ」と題した佐藤五郎氏（最上川リバーツーリズムネットワーキング代表理事）の講演をお聴きしました。佐藤先生は地域の高校生と共に、ゴムボートで最上川の源流から河口



「2023年は宮城でお待ちしております！」
あいコープからもメッセージ

私のオススメ商品



皆さんは、あいコープのお料理キットを利用されていますか？サツと作れて便利ですね。今回わたしがオススメする商品はお料理キットの「ミネストロー

ネスープ」です。鎌倉バーコンを使用したサツと作れるスープの調理時間は約15分。トマトが苦手なわたしでも本当に美味しかったです。もう少し具だくさんのスープにしたかったので、家にあったポロニアソーセージを細かく切って入れてみました。これがまた絶品スープでした！

普段、スープを飲むときは味を変化させるのに胡椒をかけていましたが、そんな必要ないくらい美味でした。ぜひ皆さんもお試し下さい、本当にオススメです！

事業部供給課 竹内 康雄

編集後記

来年初、シャボン玉フォーラムが宮城県で開催されます。石けん運動に取り組む人たちの全国的な交流と学びのイベントです。生協に就職した十数年前、初めて「石けん運動」という言葉を聞いた時、全く意味が分かりませんでした。洗濯と運動が何故結びつくのか理解できなかったのは、ひとえに家事能力の低さ、「暮らし」に無関心でいる傲慢さのせいだったと思います。それから組合員の皆さんに鍛えられ石けんから様々な社会問題が見えてくることを学びました。石けんは自分の暮らし方を自分で律する初めの一歩だと思っています。

組織運営室長 豊嶋 馨

Present

アンケートプレゼント

機関紙あいあいあいにご意見感想をお寄せください。抽選で3名の方にあいシテル商品をプレゼント！右のQRからどうぞ。



ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2022年4月分)

ささえあい(保障)	1件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	9件	利用延べ人数	0名
集団託児	0件	◆ケア時間	
慶弔・出産	9件		13.5時間
電話相談窓口	4件	*Covid-19の為、活動を	
計	23件	制限していました。	

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00~15:00

年金相談・・・7/12(火) 社会保険労務士 清野道子氏

13:30~15:30

法律相談・・・7/12(水)、7/20(火) 弁護士 倉林千枝子氏

13:30~15:30

傾聴・・・7/12(火) NPO法人仙台傾聴の会 森山英子氏

10:00~12:00

子ども相談・・・7/19(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏

10:00~12:00

介護相談 (ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏) は相談希望日をうかがいます。

▼各相談窓口前週の日曜日までには予約して下さい。随時受け付け可能です。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。



● 田んぼの場所が素晴らしく、美味しい空気を吸いながらの作業は家族にとっても貴重な時間となりました。(5/14 大郷田 へに行こう【田植え】アンケートより)

生産者さんへあいに行こう！番外編 いつでもどこでもあいに行こう！

3分以内で産地がわかる

「あいシテル」の生産現場の動画【あいシテル物語】は現在8本！
組合員さんに感想を寄せて頂きました。



牧場の職員さんの背景に、悠々と点在する牛たちの姿に癒される。パスちゃん牛乳は、生産者どころか牛の顔まで見える牛乳なんだ！この牛たちが出したお乳をいただいているんだね。牛からパック詰めまでこの動画で全部見れた！（組合員Mさん）



「あいコープさんの熱意」に動かされたと言ってくれる「菅野食品」さん。あいコープの求める安心安全なお豆腐の為に、何度も挑戦してくださっていたことや大豆への想いに感動しました。（組合員Aさん）



素材のこだわりや時間をかけて丁寧に作っているところがすごいなと思いました。（組合員Oさんのお子さん・小6）
醤油がこんなに手間をかけて絞られるなんて知らなかった。あの瓶一本に、情熱を感じるね。（組合員Mさん）



「国産大豆は旨いよね」って言われて、領いちゃう。温度や発酵時間など毎日毎日細かく設定して、少しでも美味しい納豆を作ろうとしている姿に感動です。「毎日イヤになるくらいやる」という職人さんの言葉。ありがたい。（組合員Sさん）



減農薬・減化学肥料の地元米を使った米粉のパン。米粉の製粉から焼き上げまで社会福祉法人で完結。安心です！
どうしてまあるい形なのか、この動画で知って感動しました！
働く人の笑顔を見たら納得ですよ！（組合員Fさん・Oさん）



飼育された豚がお肉になり、加工し、組合員の食卓にのぼるまで、ここまで移動距離の短いウインナーは他にない！
完成まで関わる生産者同士が、お互いをよく知っているという関係性もこの動画で感じられます。（組合員Tさん）

Calendar

6/17 金

第34回 総代会



場所/エルパーク仙台 ギャラリーホール
(感染拡大防止のため、事前申し込みのあった総代しか入れません
組合員ならどなたでも、オンライン(zoom)で傍聴ができます。)
時間/ 10:15~12:00

総代会を傍聴するには… パソコンやスマホで「zoom」を起動し
ID 858 9497 5176 パスコード 031917 を入力して参加

6/21 火

委員オリエンテーション ～ミートセンターオンライン見学会～

場所/ オンライン(zoom)開催
自宅からパソコン、スマホで参加
時間/ 10:00~12:00 参加費/無料
締切/ 6/10 詳しくは理事会発行のチラシにて

7/7 木

石けん環境委員会主催 香害学習会(仮)

場所/日立システムズホール(オンライン可)
時間/10:00~12:00
参加費/無料
※詳しくは6/6配布のチラシをご覧ください

委員さん募集中！

あいコープの仲間と お問い合わせ先
食のこと ☎0120-255-044
環境のこと Fax 0120-849-324
一緒に話しませんか？ Email soshiki@mamma.coop
(担当：組織運営室長 豊嶋)



女川原発が止まってから

4101日目

(2022年6月1日現在)